

2010年4月22日

### プレスリリース

本資料は4月22日にチュ  
ーリッヒで発表されたプレ  
スリリースの翻訳版です

## クレディ・スイス・グループ 2010年第1四半期業績を発表

純利益 21 億スイス・フラン (CHF)、株主資本利益率 22.3%、新規純資  
産 260 億 CHF、Tier 1 資本比率 16.4%

- 全体的に好調な業績、2009年第1四半期から営業業績が改善、業界トップクラスの株主資本利益率、業界最低レベルのリスク、引き続き大幅な新規純資産獲得
- 当四半期の業績は、クレディ・スイスの顧客中心で資本効率の高い事業戦略が引き続き成功していることを証明。過去5四半期の平均値は、営業純利益 19 億 CHF、株主資本利益率 21%、グループ全体の新規純資産 140 億 CHF
- プライベート・バンキング部門、堅調な業績：税引前利益 9 億 CHF、海外およびスイス国内の事業を通じ 186 億 CHF という極めて好調な新規純資産を獲得
- インベストメント・バンキング部門、質の高い業績：税引前利益 18 億 CHF、税引前経済資本収益率 37.2%、顧客業務の勢いを持続、証券事業全体を通じて引き続き市場シェアを拡大、好調な引受およびアドバイザリー業務
- アセット・マネジメント部門：税引前利益 2 億 CHF、ほとんどのアセットクラスから 112 億 CHF という良好な新規純資産を獲得
- 極めて強固な資本基盤と流動性を堅持、スイス金融市場監督当局 (FINMA) が発表した新たな流動性規制に十分対応可能

クレディ・スイス・グループは、本日、2010年第1四半期の業績を発表しました。2010年第1四半期は株主帰属ベースで 21 億 CHF の純利益、中核事業の純収益は 90 億 CHF を計上しました。株主帰属ベースの株主資本利益率は 22.3%、希薄化後 1 株当たり純利益率は 1.63 CHF でした。当四半期末現在の Tier 1 資本比率は 16.4% でした。

最高経営責任者 (CEO) のブレイディ・ドゥーガンは次のように述べています。「当社の顧客中心で資本効率の高い事業戦略およびリスクの低い事業モデルが、安定した質の高い利益を創出できるということ、2010年第1四半期の業績で再度証明することができました。業績の良かった 2009年第1四半期からさらに営業業績を改善し、業界トップクラスの株主資

本利益率と資本基盤を実現したことを嬉しく思います。また、強力な顧客フローを創出し、新規純資産の大幅流入も維持できました。第2四半期の市場環境はこれまでのところ第1四半期と似ていますが、当社はこの事業モデルを通じて、市場環境の善し悪しを問わず、引き続き質の高い業績を生み出すことができると確信しています」。

プライベート・バンキング部門について、「市場環境が回復し、総合的なソリューションへの需要が回復すれば、同部門の収益性はさらに改善すると考えています。また、金利上昇からも利益を得ることができると考えられます。当社はコンプライアンス体勢の充実したマルチショア事業の構築に長年努めており、クロスボーダー金融業務への規制環境が変化する中においても、好業績を上げることができる位置を確保しています。今後も海外事業基盤の強化と拡大に投資します」（ドゥーガン）。

インベストメント・バンキング部門について、「金融業界の環境変化に対応すべく同部門の再構築を行った結果、好調な業績を上げています。営業体制と顧客基盤を拡充することで、当社は同部門のあらゆる分野で市場シェアを拡大する機会を手にしておりと確信しています。金利、外国為替、エマージング市場、クレジットなどの主要業務で営業部門を増員し、証券事業全般の営業能力を大幅に拡大しています」（ドゥーガン）。

アセット・マネジメントについて、「アセット・アロケーション、スイス国内事業、およびオルタナティブ投資を、手数料収入を創出し、他社より優れている中核事業と位置付け、それらの事業に重点的に取り組んでいます。同部門は2009年に講じた戦略的措置の利益をさらに享受し、2010年ならびにそれ以降、クレディ・スイスとその顧客に大きく貢献すると思えます」（ドゥーガン）。

## 決算ハイライト

単位：百万 CHF	2010年 第1四半期	2009年 第4四半期	2009年 第1四半期	2009年 第4四半期 からの増減率 (%)	2009年 第1四半期 からの増減率 (%)
当期純利益 株主帰属ベース	2,055	793	2,006	159	2
希薄化後1株当たり利益 (CHF)	1.63	0.56	1.59	191	3
株主資本利益率 株主帰属ベース (年換算)	22.3%	8.3%	22.6%	-	-
Tier 1 資本比率 (当期末)	16.4%	16.3%	14.1%	-	-
継続事業からの運用資産 (10億 CHF)	1,270.9	1,229.0	1,121.7	3.4	13.3
<b>中核事業</b>					
純収益	8,961	6,533	9,557	37	(6)
貸倒引当金繰入額	(50)	(40)	183	25	-
営業費用合計	6,077	5,228	6,320	16	(4)
継続事業からの税引前利益 <sup>1)</sup>	2,934	1,345	3,054	118	(4)

<sup>1)</sup> 中核事業は3事業部門とコーポレート・センターの業務を含む。ただし大きな経済的利益を有しない少数株主持分に関する利益と費用を除く。

## 部門別業績

### プライベート・バンキング部門

ウェルス・マネジメント顧客事業とコーポレート&インスティテューショナル顧客事業からなるプライベート・バンキング部門の2010年第1四半期の税引前利益は8億9,200万CHFでした。純収益は、前年同期を2,200万CHFとやや上回る29億CHFでした。営業費用合計

は前年同期を8%上回りましたが、これにはキャプティブ保険の清算金1億CHFが含まれています。この影響で、当四半期の税引前利益は前年同期比10%減となりましたが、それを除くと前年同期と変わりません。当四半期の新規純資産は186億CHFで、これは特にスイス国内およびエマージング市場の顧客から大幅な資産流入があったためです。

**ウェルス・マネジメント顧客事業**の2010年第1四半期の税引前利益は6億7,700万CHFで、前年同期を6%下回りました。これは当四半期の純収益が前年同期比4%増の24億6,400万CHF（継続事業ベース、トランザクション・ベースの収益がともに増加）となったものの、営業費用合計の8%増によって相殺されたためです。当四半期に計上した上述のキャプティブ保険の清算金を除いた場合、税引前利益は前年同期比5,300万CHF増（8%増）です。当四半期の継続事業ベースの前年同期比増収は手数料等収入の増加によるものですが、これによって純利息収入の落ち込みを相殺できました。一方、トランザクション・ベースの増収は主に仲介手数料と商品発行手数料収入の増加によるものです。当四半期の運用資産の総マージンは121ベース・ポイントで、前年同期を13ベース・ポイント下回りました。これは、平均運用資産が14.8%増加し、純収益が4%増加したことによるものです。プライベート・バンキング部門の新規純資産のうち、ウェルス・マネジメント顧客事業の貢献分は129億CHFで、これを年率ベースの新規純資産成長率に換算すると6.4%となります。

**コーポレート&インスティテューショナル顧客事業**の2010年第1四半期の税引前利益は2億1,500万CHFで、前年同期を20%下回りました。これは、当四半期の純収益が前年同期を14%下回る4億3,600万CHFとなった一方、営業費用合計が11%増となったためです。減収は、主として純利息収入の減少によるもので、これは低金利環境によるものです。当四半期の業績には、シンセティック・ローン担保ポートフォリオである「クロック・ファイナンス」関連時価損失分1,200万CHFが含まれています（前年同期は500万CHFの利益）。2010年第1四半期の貸倒引当金の正味取崩分は1,300万CHF（前年同期は正味貸倒引当金3,100万CHF）でした。同部門の当四半期の新規純資産は、57億CHFととりわけ顕著な伸びを記録しました。

### **インベストメント・バンキング部門**

インベストメント・バンキング部門は、2010年第1四半期も顧客中心で資本効率の高い事業戦略を継続し、ほとんどの業務分野および地域で市場シェアの勢いを維持しました。2010年第1四半期は純収益52億1,600万CHF、税引前利益17億9,400万CHFで、これは同部門の多様性に富んだ業績を反映しています。債券営業とトレーディング収入は良好で、これはクレジット商品（ハイイールドと投資適格商品の両方）、住宅用モーゲージ担保証券（RMBS）トレーディングおよびエマージング市場によって牽引されました。これによりグローバル金利および外国為替業務における弱い市場環境の影響を相殺できました。株式営業とトレーディング収入は、抑制された市場活動にもかかわらず弾力的で、キャッシュ・エクイティ、プライム・サービス、株式デリバティブの好調な収入によって牽引されました。これは主要市場での市場シェア拡大が維持されたためです。インベストメント・バンキング部門の当四半期は、前年同期と比べて、税引前利益は26%減、純収益は19%減でした。2009年第1四半期の業績は、主に2008年第4四半期に激しく混乱した市場状況の正常化によってもたらされた約13億CHFならびにクレディ・スイス社債の時価評価額益3億6,500万CHF（2010年第1四半期は5,900万CHFの時価評価損）によるものです。2009年第1四半期の業績にはクレディ・スイスが現在撤退を進めている事業からの損失分17億CHFも含まれています。インベストメント・バンキング部門の2010年第1四半期の業績は、2009年第1四半期と比べ

て米ドルの対スイス・フラン為替相場が平均的に下落し、収益にマイナスの影響、費用にプラスの影響を与えました。これも 2010 年第 1 四半期の業績に影響を与えています。当四半期の税引前利益マージンは前年同期の 37.5%に対して 34.4%でした。当四半期の税引前経済資本収益率は前年同期の 45.3%に対して 37.2%で、引き続き堅調に推移しました。顧客中心の業務による収益は 2009 年第 4 四半期に落ち込みましたが、その後回復に転じたため、当四半期の同部門の業績は 2009 年第 4 四半期に比べ大幅に改善しました。

インベストメント・バンキング部門の従業員報酬は、引き続き各業務分野ならびに同部門全体の経済的収益力に基づいて認識しています。この結果、当四半期の従業員報酬費用は 23 億 2,400 万 CHF で、これは収益（自社社債の時価評価増減分を除く）の 44%に相当し、2009 年第 1 四半期については収益（自社社債の時価評価増減分を除く）の 48%に相当しました。その他の営業費用は合計で前年同期を 18%上回りましたが、これは主に株式および債券全体を通じた各種顧客フロー業務の拡大に関連した IT 投資費用の増加によるものでした。

インベストメント・バンキング部門は、顧客中心の事業の拡大にともないリスク加重資産を 2009 年第 4 四半期から 1,440 億米ドルに拡大しました。一日平均バリュアットリスク値 (VaR) 99%は、2009 年第 4 四半期から 9%増加して 1 億 400 万 CHF となりました。

#### リーグテーブル・ハイライト

- 発表済 M&A：米州第 1 位、世界第 3 位
- 株式引受：世界トップ 5 以内、欧州・中東・アフリカ地域第 2 位
- 債券引受：投資適格およびハイイールド債引受で世界トップ 5 以内
- エマージング市場：引受およびアドバイザーで顧客一人当りシェア第 1 位

#### アセット・マネジメント部門

アセット・マネジメント部門の 2010 年第 1 四半期の税引前利益は 1 億 6,600 万 CHF（2009 年第 1 四半期は 4 億 9,000 万 CHF の損失）でした。当四半期の純収益は 6 億 3,100 万 CHF で、前年同期を 6 億 2,500 万 CHF 上回りました。当四半期の純収益は、主に投資関連利益 1 億 2,600 万 CHF（主にプライベート・エクイティおよびクレジット関連投資による利益、2009 年第 1 四半期は 3 億 8,700 万 CHF の損失）とクレディ・スイスのマネー・マーケット・ファンドから取得した証券の実現および未実現利益 1 億 700 万 CHF（2009 年第 1 四半期は 2,100 万 CHF の損失を計上）によるものです。当四半期の営業費用合計は前年同期比 6%減でしたが、これは従業員報酬と手当および一般管理費が減少したものの、一部手数料関連費用の増加によって相殺されたためです。当四半期の新規純資産は 112 億 CHF で、これはマルチアセット・クラス・ソリューションへの流入分 44 億 CHF、オルタナティブ投資 43 億 CHF、スイス国内アドバイザー事業 13 億 CHF が含まれます。

#### 部門別業績

単位：百万 CHF		2010 年 第 1 四半期	2009 年 第 4 四半期	2009 年 第 1 四半期	2009 年 第 4 四半期からの 増減率 (%)	2009 年 第 1 四半期からの 増減率 (%)
プライベート・ バンキング	純収益	2,900	3,000	2,878	(3)	1
	貸倒引当金繰入額	19	26	47	(27)	(60)
	営業費用合計	1,989	2,117	1,839	(6)	8
	税引前利益	892	857	992	4	(10)
インベストメント・ バンキング	純収益	5,216	3,038	6,442	72	(19)
	貸倒引当金繰入額	(69)	(66)	136	5	-

	営業費用合計	3,491	2,074	3,892	68	(10)
	税引前利益	1,794	1,030	2,414	74	(26)
<b>アセット・ マネジメント</b>	純収益	631	637	6	(1)	-
	貸倒引当金繰入額	0	0	0	-	-
	営業費用合計	465	478	496	(3)	(6)
	税引前利益（損失）	166	159	(490)	4	-

### 統合バンク・モデルの利点

クレディ・スイスは、2010年第1四半期に、統合事業モデルを通じてコラボレーション収益10億CHFを創出しました。これは2009年第1四半期と同じです。

### 資本基盤および流動性

クレディ・スイスの資本基盤は引き続き強固です。2010年第1四半期末のTier 1資本比率は16.4%です。これに対し、2009年第1四半期末は14.1%、2009年第4四半期末は16.3%でした。

クレディ・スイスは、信用市場と金融市場が混乱した時、強力な流動性ポジションを確保していました。そして市場での資金調達を通じて、多額の追加費用を負担しながらも、その流動性を維持、強化してきました。これらを通じて、スイス金融市場監督当局（FINMA）が昨日発表した定量・定性流動性管理に関する新規則が2010年第2四半期末から施行されても、当社はそれに十分対応できる地位を確保しています。

### 本件に関するお問い合わせ先

コーポレート・コミュニケーションズ

梶野 勇

Tel : 03-4550-9893

Email : isamu.kajino@credit-suisse.com

### クレディ・スイス AG について

クレディ・スイス AG は、世界有数の金融機関として、プライベート・バンキング、インベストメント・バンキング、アセット・マネジメント事業を世界中で展開し、アドバイザー・サービス、包括的なソリューション、革新的な商品を、世界中の法人および富裕層個人顧客、またスイス国内の一般個人顧客に提供しています。クレディ・スイスは、世界50ヶ国以上に拠点を持ち、約48,300人の従業員を有しています。親会社クレディ・スイス・グループ AG の株式（CSGN）はスイスで上場され、米国預託証券（CS）としてニューヨークでも上場しています。

**Cautionary statement regarding forward-looking information and non-GAAP information**

This press release contains statements that constitute forward-looking statements within the meaning of the Private Securities Litigation Reform Act. In addition, in the future we, and others on our behalf, may make statements that constitute forward-looking statements. Such forward-looking statements may include, without limitation, statements relating to the following:

- our plans, objectives or goals;
- our future economic performance or prospects;
- the potential effect on our future performance of certain contingencies; and
- assumptions underlying any such statements.

Words such as “believes,” “anticipates,” “expects,” “intends” and “plans” and similar expressions are intended to identify forward-looking statements but are not the exclusive means of identifying such statements. We do not intend to update these forward-looking statements except as may be required by applicable securities laws. By their very nature, forward-looking statements involve inherent risks and uncertainties, both general and specific, and risks exist that predictions, forecasts, projections and other outcomes described or implied in forward-looking statements will not be achieved. We caution you that a number of important factors could cause results to differ materially from the plans, objectives, expectations, estimates and intentions expressed in such forward-looking statements. These factors include:

- the ability to maintain sufficient liquidity and access capital markets;
- market and interest rate fluctuations;
- the strength of the global economy in general and the strength of the economies of the countries in which we conduct our operations, in particular the risk of a continued US or global economic downturn in 2008 and beyond;
- the direct and indirect impacts of continuing deterioration of subprime and other real estate markets;
- further adverse rating actions by credit rating agencies in respect of structured credit products or other credit-related exposures or of monoline insurers;
- the ability of counterparties to meet their obligations to us;
- the effects of, and changes in, fiscal, monetary, trade and tax policies, and currency fluctuations;
- political and social developments, including war, civil unrest or terrorist activity;
- the possibility of foreign exchange controls, expropriation, nationalization or confiscation of assets in countries in which we conduct our operations;
- operational factors such as systems failure, human error, or the failure to implement procedures properly;
- actions taken by regulators with respect to our business and practices in one or more of the countries in which we conduct our operations;
- the effects of changes in laws, regulations or accounting policies or practices;
- competition in geographic and business areas in which we conduct our operations;
- the ability to retain and recruit qualified personnel;
- the ability to maintain our reputation and promote our brand;
- the ability to increase market share and control expenses;
- technological changes;
- the timely development and acceptance of our new products and services and the perceived overall value of these products and services by users;
- acquisitions, including the ability to integrate acquired businesses successfully, and divestitures, including the ability to sell non-core assets;
- the adverse resolution of litigation and other contingencies; and
- our success at managing the risks involved in the foregoing.

We caution you that the foregoing list of important factors is not exclusive. When evaluating forward-looking statements, you should carefully consider the foregoing factors and other uncertainties and events, as well as the information set forth in our Form 20-F Item 3 – Key Information – Risk Factors.

This press release contains non-GAAP financial information. Information needed to reconcile such non-GAAP financial information to the most directly comparable measures under GAAP can be found in the Credit Suisse Financial Report 2Q08.